

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：31303

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720108

研究課題名（和文）19世紀イギリス帝国主義と小説の共謀関係再考

研究課題名（英文）A Reconsideration of the Complicit Relationship Between
Nineteenth-Century British Imperialism and Fiction

研究代表者

鈴木 淳（SUZUKI JUN）

東北工業大学・共通教育センター・講師

研究者番号：10552755

研究成果の概要（和文）：

これまでヴィクトリア朝小説は 19 世紀イギリス帝国主義を維持するための道具とみなされてきた。しかし、本研究において、Sarah Grand と Wilkie Collins のテキストを分析することで、実際には小説が帝国の未来についての不安を映し出していることが分かった。具体的には、Grand の “Eugenia” と Thomas Hardy の *Jude the Obscure* を比較することで、Hardy がニューウーマン小説の中で主張されている女性の役割に関する帝国主義の言説に挑戦していることを明らかにした。また、Collins の *The Frozen Deep* に注目することで、イギリス人紳士の理性が実はイギリス人の身体の中にある他者性に拠っていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

Victorian fiction has been regarded as an instrument to maintain nineteenth-century British imperialism. However, in this study, by analyzing texts by Sarah Grand and Wilkie Collins, I have found out that they actually show an anxiety about the future of the nation. Specifically, by comparing Grand’s “Eugenia” with Thomas Hardy’s *Jude the Obscure*, I have demonstrated Hardy’s challenge to imperialistic discourses concerning women’s roles. Moreover, by focusing on Collins’s *The Frozen Deep*, I have shown that the rationality of the English gentleman is founded on the Otherness inside the English body.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|----------|---------|----------|
| 2010年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2011年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1200,000 | 360,000 | 1560,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：帝国主義、小説、センセーション小説、ニューウーマン小説、セクシュアリティ

1. 研究開始当初の背景

これまでヴィクトリア朝の小説は帝国主義と共謀していたと言われてきた。サイド以

降、ポストコロニアル理論により、様々なヴィクトリア朝小説について帝国主義との関係で読み直しがなされてきているが、本研究

では、センセーション小説やニューウーマン小説などヴィクトリア朝中期から後期の小説で帝国主義との共謀関係が見られるとされてきたジャンルの作品に注目し、その解釈に疑問を唱え、新たな読みの可能性を探った。

2. 研究の目的

(1) ニューウーマン小説作家 Sarah Grand の小説における「母性」や「性選択」という女性に関する帝国主義的な言説が Thomas Hardy の小説のなかで挑戦されていることを明らかにする。

(2) センセーション小説作家 Wilkie Collins の小説に描かれたイギリス人の「理性」による優位性という帝国主義的な言説が実はイギリス人の「非理性」によって成り立っていることを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) ニューウーマン小説における「帝国の母」としての女性の役割を Grand の作品から明らかにする一方で、Hardy の作品では女性のセクシュアリティがどのように描かれているか、また、その描写を通して、Hardy がどのようにニューウーマン小説に挑戦しているかを分析した。

(2) Collins の小説の中に見られる「千里眼」というゴシック的な要素と、一方でそれを否定する「理性」という帝国主義の言説を分析し、テキストがどのように帝国の秩序回復に向かっているのか、また実際に秩序は回復できているのかを分析し、Collins のセンセーション小説の特徴を確認した。

4. 研究成果

(1) ニューウーマン小説で描かれた「帝国の母」としての女性に対して、実際のテキストでは、女性のセクシュアリティに関して曖昧さが残る。一方、女性のセクシュアリティの問題に関して、Hardy はテキストで母性を持たない性的に自由な女性を描き、当時のニューウーマン小説の言説に挑戦している。結果として、Hardy の小説を通してニューウーマン小説を読み直した場合、小説は必ずしも帝国主義と共謀しているとは言えず、逆にニューウーマン小説には自ら自然のセクシュアリティを抑圧した女性が描かれていることになり、そこには帝国の未来への不安が残ることがわかった。

(2) センセーション小説作家である Wilkie Collins の作品に描かれた「千里眼」と、同時に存在するそれを否定するベクトルに注目し、そこに帝国主義の文明化の任務というプロットを読み取った。しかし、テキストの

最後では、千里眼を否定し回復したと思われたイギリスの秩序が、実はイギリス人の身体に潜んでいる「非理性」に依存していることが分かる。その結果、テキストは不安を抱えたままとなる。Collins と Dickens の関係を合わせて問題を考慮することで、「男性同士の絆」や看護の問題、さらには Collins のテキストに見られるゴシック的な性格などの点から、小説と帝国主義の共謀関係というこれまでの解釈を崩すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① Jun Suzuki, Hardy's Misogyny: Reading *Jude the Obscure* as his Response to New Woman Fiction. (査読有)、『ハーディ研究』、第 38 号、2012、(掲載予定)

② Jun Suzuki, Is Collins a "Conservative" or "Subversive" Novelist?: The Second Sight in Wilkie Collins's *The Frozen Deep* (1874). (査読無)、『東北工業大学紀要 II 人文社会科学編』、第 32 号、2012、pp. 89~100

[学会発表] (計 2 件)

① 鈴木淳「ハーディのミソジニー—ニューウーマン小説への反応として『ジュード』を読む—」日本ハーディ協会第 54 回大会 (中央大学 多摩キャンパス) (2011 年 10 月 29 日)

② 鈴木淳「後期イギリス帝国主義はスコットランドを文明化できるか—*The Frozen Deep* における千里眼—」日本英文学会第 82 回全国大会 (神戸大学国際文化学部キャンパス) (2010 年 5 月 30 日)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 淳 (SUZUKI JUN)
東北工業大学・共通教育センター・講師
研究者番号：10552755

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：